１．教員養成の理念

仏教精神により円満なる人格を涵養し、もって有為なる女性を育成することを目的とする。仏教精神により円満なる人格の涵養とは、校訓「真実心」に基づき、仏教精神である智慧と慈悲によって、向上心、潤いの心、感謝の心という光華の心を持つ学生を育成する教育的営みのことである。

特に教員養成については、①「主体的な人間」、すなわち自己を確立し自ら学ぶことを通じ専攻分野の知識を極めること、②「共に生きる人間」、すなわち他者との共感・共生を通じての人格形成に重点を置いた教育目標を設定している。

将来教員となることを強く希望する学生が、教育の専門職にたるにふさわしい学力を確実に身につけ、「主体的な人間」として、専攻分野の知識に基づき、教育者として幅広い知識や必要な様々な技術を習得すること、同時に「共に生きる人間」として、豊かな人間性を養いその資質を高めるための機会を提供することを目的とする。具体的には、全学的に養成しようとする教師像として、次のような資質・能力を形成することに努める。

(1)「建学の精神」である真実心を教育理念とした信念のある教師
(2) 幅広い識見と専門的な知識を有する実践力のある教師
(3) 教育職に対する使命と責任を重んじ、児童・生徒を大切にする教師
(4) 保護者・地域と連携し、開かれた学校づくりを担いうる教師
(5) 社会の変化に柔軟に対応しうる教師

２．学科等で取得できる教員免許状の種類

学部・研究科	学科・専攻	入学定員	設置年度	教員免許状の種類
健康科学部	健康栄養学科 管理栄養士専攻	80名	平成25年度	栄養教諭一種免許状
	健康栄養学科 健康ｽﾎﾟｰﾂ栄養専攻	40名	平成25年度	栄養教諭二種免許状
			平成29年度	中学校・高等学校教諭一種免許状（保健体育）
	看護学科	85名	平成23年度	養護教諭一種免許状
こども教育学部	こども教育学科	70名	平成27年度	幼稚園教諭一種免許状 小学校教諭一種免許状

３．学科の教員養成理念と到達目標

■こども教育学科における教員養成理念

【幼稚園教諭一種免】

保育に携わるに相応しい広い視野、思考力、判断力、的確な指導力を身につけ、主体的に行動できる幼稚園教員の養成を目指す。そのために、リベラルアーツ科目・こども教育学科専門科目・実習・卒業研究・課外活動などを通して、広い教養と保育に関する理論及び実践力を習得し、建学の精神である「真実心」を体得して「思いやりの心」、「向上心」、「感謝の心」を保育実践に生かすとともに、保育職に責任感と情熱を持ち、自らも学び・成長し続ける意欲を有する保育者を養成する。

各学年の到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	建学の精神である「真実心」について理解し、リベラルアーツ教育科目および専門基幹科目から大学での学びおよび教育・保育の基本的知識を身につける。また基礎ゼミでのKOKA初年次インターンを通して併設幼稚園・小学校の保育・授業参観を行い子どもの実態や保育現場の様子を理解する。
	後期	主に「教育に関する基礎的理解に関する科目」や「領域及び保育の指導法に関する科目」について学び、KOKA初年次インターンを通して併設幼稚園・小学校の保育・授業参観や交流を通して理解したことなどを踏まえ、子どもの発達と幼児教育・保育の実践的な指導について理解する。
2年次	前期	「保育基礎演習」において2年次後期以降に履修する実習実施に関する基本的な事項を理解し、併設幼稚園において保育における観察の視点や観察記録の取り方について学ぶ。「領域及び保育の指導法に関する科目」において保育活動での教材についての知識と理論を習得するとともに、保育の基本技能としての実技科目においては各技能を高めて実践力を身につける。
	後期	主に保育士資格にかかわる科目について学び、乳児期からの具体的な発達やその方向性、養護の理念や内容について理解し、幼児教育にも反映させることで、幼児期の発達の過程を意識して次年度幼稚園教育実習に臨む意欲や関心を高める。
3年次	前期	実習に向けて併設幼稚園でのインターンシップに参加し、子どもの興味・関心や発達について理解し、実践力を高める。9月に実施される4週間の幼稚園教育実習において、幼稚園教諭としての心構えや子どもとの関わり方を体得するとともに保育指導案を立案して実践的指導力を身につけ、それらを理論的な知識と結びつける。
	後期	幼稚園教育実習を終えて、現場での学びを振り返るとともに幼稚園教諭としての自己の課題を明確にする。また、これまでに学んだことや実習などでの経験を踏まえ、4年次に向けての卒業研究のテーマの絞り込みを行う。
4 年次	前期	「保育内容研究」においてこれまでに得た知識・技能をもとに体験した実習での経験を振り返り、各領域の保育のねらいや保育の理論について再確認し、保育の専門性を深める。保育職への就職活動を通して自己の教員像をイメージすることができるようにする。
	後期	教職カルテを作成して「教職・保育実践演習」を履修し、幼稚園教諭としての資質や能力について再確認し、保育現場での今日的課題を把握する。「仏教教育論」においては、保育・教育現場での仏教の教えを基にした活動の展開について実践力を高める。また、4年間の学びの集大成として、各自の選んだテーマについて論文としてまとめ、ゼミや発表会などで自分の考えを他者に伝える経験を通し、保育職に就いたあとも学び続けられる態度を養う。

■こども教育学科における教員養成理念

【小学校教諭一種免】

建学の精神である「真実心」を体得し、慈しみの心をもって子どもと向き合う教育者の養成を目指している。そのために、リベラルアーツ教育科目・こども教育学科の専門科目・実習、卒業研究、課外活動等を通して、学校教育に携わるに相応しい広い視野、柔軟で深い思考力、冷静で筋の通った判断力、さらにはこどもの成長に資する的確な指導力を身に付け、教員として主体的に行動できる力を育成する。

各学年の到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	大学生としての生活習慣を確立し、リベラルアーツ教育科目及び、専門基幹科目の履修を中心に、基礎的な知識と、ノートテイクやプレゼン方法など学びの方法を身に付ける。また、KOKA初年次インターンを通して併設する光華小学校・光華幼稚園の授業参観を行い、現場の実状について理解する。
	後期	「算数」「教職論」等から、教員として必要な心構えや教育現場で必要とされる基礎理論を理解する。また、KOKA初年次インターンの活動を通して学んだ基礎理論の理解を深め、感じ取ったことや疑問を整理してまとめ、お互いに発表と意見交換を行うことで学びの共有を行う。
2年次	前期	教科及び教科の指導法に関する科目を通して、小学校の教育内容及び、授業計画、指導案の作成等について理解する。また、小学校でのボランティア活動を通して、大学の学びと、現場での学びを結びつけて考え、現場のニーズに合わせたスキル、自分が高めたいスキルを理解する。
	後期	教科及び教科の指導法に関する科目を通して、小学校の教育内容及び、授業の目標と指導と評価の一体化について理解する。また、ボランティア先の小学校でインターンシップを行い、その経験をその都度大学で振り返ることで、自身の課題を見付け、理論と実践の融合を目指す。
3年次	前期	各教科の指導法に関する科目において模擬授業や相互評価を通して、授業力や指導力を高める。特に、グローバル社会に対応した英語力と英語指導力、ICT機器の活用については、授業外でも学びの場を設け、後期の教育実習で十分に力を発揮できるように指導力を高める。
	後期	ゼミへ所属して、こども教育に関する研究テーマを見つける。教育実習を通して、小学校の毎日の生活を理解し、積極的にこどもと関わることで自己の課題を見付け、教員になることへの意欲を高める。
4 年次	前期	教員採用試験に向けた準備、対策講座、教員採用試験等を通して、自身の教員像をしっかりイメージすることができるようになる。卒業研究を通して、こども教育に関する自分の考えを根拠に基づいてまとめる力を養う。
	後期	卒業研究を完成させ、ゼミや発表会を通して自分の考えを他者に伝えることで、自身の研究への理解を深める。教職履修カルテを作成して履修する「教職・保育実践演習」を通して自身の4年間を振り返り、小学校の教員として今後どのように活動していくのか、課題と展望を明確に持つことが出来る。

■健康栄養学科における教員養成理念

【中学校教諭一種免・高等学校教諭一種免（保健体育）】

本専攻で養成を目指す保健体育科教員は、栄養士養成課程における教員養成という特色を活かし、専門教育で培われる栄養学の専門性をバックグラウンドとして、児童・生徒の生涯に渡る健康増進に資することができる人材である。教職課程においては、スポーツの楽しさを伝える体育実技の指導力、健康への意識を高める保健分野の指導力の修得を図り、ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの実践的指導力や建学の精神に基づき一人一人の生徒に寄り添える教育者としての精神を育む。さらには、健康運動指導士・健康運動実践指導者の資格取得も促進し、生涯に渡ってスポーツに親しむ心身ともに健康な国民の育成に貢献する能力を身につける。

各学年の到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	入学後の教職課程ダイダンスにおいて教職を目指す意志を確認し、4年間のカリキュラム構成を理解する。教員として必要な資質・能力の根本に関わる日本国憲法や情報リテラシーに関する科目等の内容を着実に修得するとともに、リベラルアーツ科目と学科における初年次教育を通じて、大学における主体的な学びの方法と精神を会得する。
	後期	教職の意義及び教員の役割・職務内容に関する科目を履修し、教職に関する基礎的知識を修得するとともに、教職を目指す意志を確たるものとする。学科科目においては、栄養学に基づく健康増進およびスポーツ指導についての基礎的知識・技能を確実に習得し、保健体育科教員としての教科指導力の基礎を身につける。
2年次	前期	教育の理念及び教育に関する歴史及び思想に関する科目や教育課程の意義及び編成の方法に関する科目を柱として、学校現場での実践的指導の土台となる教育学の基礎的知識を習得し、教育に関わる諸問題について経験論だけでなく理論的に思考できるようになる。加えて、1年次に引き続き、学科科目を通じて健康および栄養に関する知識・技能を向上させる。
	後期	教育に関する制度的事項に関する科目や教育の方法及び技術に関する科目を核として、教員として必要な教育法規や教育制度に関する基礎的知識や理論に裏打ちされた教科指導力の基礎を確実に修得する。並行して、2年後期からスタートする保健体育科指導法の授業を通じて、指導案作成等の現場で必須となる実践的スキルの基礎を習得する。
3年次	前期	前年度までの修得事項を基盤として、教育相談や生徒指導に関する科目を柱として、実践的指導力を向上させる。学科の専門科目も含めて、3年前期までに一通りの知識・技能を身につけ、後期から開始される教育実習の事前指導への準備ができた状態にする。教科指導力については、保健体育科指導法の授業を通じて、単独での指導案作成能力を獲得する。
	後期	保健体育科指導法と教育実習の事前指導を通して、指導案作成と模擬授業を重ねることによって、保健体育科のみならず道徳や特別活動も含めて、現場で求められる水準の指導力を獲得する。翌年の教育実習と教員採用試験を見据え、教職に就くためにこれからするべきことを自らの中で明確に整理し、それに対する準備を生活の中での最優先事項として位置付ける。
4 年次	前期	3週間の教育実習で実際の教員の職務を身をもって経験し、大学の講義や演習のみでは得られない実践的な体験を積む。実習の集大成となる研究授業では、指導案作成や反省会を通して、一人の教員として今すぐ現場に出ても恥ずかしくない水準の指導力を修得する。教員採用試験においては、知識・技能・人物評価のいずれにおいても採用者の求める水準をクリアする。
	後期	教育実習の経験を踏まえ、教職課程の総仕上げとなる教職実践演習でICTを使用した模擬授業等に取り組み、翌春から中・高等学校の教員として十分に勤務可能な力量を確たるものとする。卒業研究においては、答えのない課題に対して自分の力で取り組む経験を積み、栄養士としての専門性を強みとしながら生涯に渡って学び続ける教師としての基盤を形成する。

■健康栄養学科における教員養成理念

【栄養教諭一種免】

社会構造の変化や価値観の多様化によるライフスタイルの変容は、学校における食育の重要性をかつてない程に高めている。このような時代に求められる資質・能力を備えた栄養教諭の養成を目指し、教職課程と学科での管理栄養士養成を一体化した教育を展開する。①個別最適な学びと協働的な学びの実践的指導力、②栄養学の専門知識、③給食の調理・管理の知識・技能を身につけるだけでなく、京都が誇る豊かな食文化に触れることで、④人々の生活の質（QOL）を高める「食」のマネジメント力を獲得させる。これらを土台として、「学校給食の管理」および「食に関する指導」を家庭や地域住民その他の関係者との連携の上で実践する資質・能力を身につけさせる。

各学年の到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	入学後の教職課程ダイダンスにおいて教職を目指す意志を確認し、4年間のカリキュラム構成を理解する。教員として必要な資質・能力の根本に関わる日本国憲法や情報リテラシーに関する科目等の内容を着実に修得するとともに、リベラルアーツ科目と学科における初年次教育を通じて、大学における主体的な学びの方法と精神を会得する。
	後期	教職の意義及び教員の役割・職務内容に関する科目を履修し、教職に関する基礎的知識を修得するとともに、教職を目指す意志を確たるものとする。学科の教育においては、栄養学や調理に関する基礎的科目の内容を確実に習得するとともに、学校栄養教育に関する基礎科目を履修し、栄養教諭としての職務遂行に必要な知識・技能を基礎を身につける。
2年次	前期	教育の理念及び教育に関する歴史及び思想に関する科目や教育課程の意義及び編成の方法に関する科目を柱として、学校現場での実践的指導の土台となる教育学の基礎的知識を習得し、教育に関わる諸問題について経験論だけでなく理論的に思考できるようにする。加えて、1年次に引き続き、学科科目を通じて調理、栄養、健康に関する専門的知識・技能を向上させる。
	後期	教育の方法及び技術に関する科目を核として、教育学の理論に裏打ちされた食に関する指導力の基礎を確実に習得し、栄養教諭としての自らの将来像をイメージする。並行して、学科での栄養学、食品学関係の実験・実習の経験を積み、管理栄養士としての専門性の基礎を身につける。
3年次	前期	前年度までの修得事項を基盤として、学科の専門科目も含めて3年前期までに栄養教諭として最低限必要な知識・技能を修得し、後期から開始される栄養教育実習の事前指導に備えられるようにする。前期の終了時には教員採用試験まで1年を切っていることを認識し、受験生としての自覚を強く持つ。
	後期	栄養教育実習の事前指導を通して、指導案作成と模擬授業を重ねることによって、現場で授業を実施する上で求められる水準の指導力を獲得する。翌年の教育実習と教員採用試験を見据え、教職に就くためにこれからするべきことを自らの中で明確に整理し、それに対する準備を生活の中での最優先事項として位置付ける。
4 年次	前期	栄養教育実習で実際の栄養教諭の職務を身を以て経験し、大学の講義や演習のみでは得られない実践的な体験を積む。研究授業での指導案作成や反省会を通して、一人の教員として直ちに現場に出ても恥ずかしくない水準の指導力の獲得を目指す。教員採用試験においては、知識・技能・人物評価のいずれにおいても採用者の求める水準をクリアする。
	後期	栄養教育実習の経験を踏まえ、教職実践演習でICTを使用した模擬授業等に取り組み、翌春から栄養教諭として十分に勤務可能な力量を確たるものとする。卒業研究においては、答えのない課題に対して自分の力で取り組む経験を積み、管理栄養士としての専門性を強みとしながら生涯に渡って学び続ける教師としての基盤を形成する。管理栄養士国家試験にも優秀な成績で合格する。

■健康栄養学科における教員養成理念

【栄養二種免】

社会構造の変化や価値観の多様化によるライフスタイルの変容は、学校における食育の重要性をかつてない程に高めている。このような時代に求められる資質・能力を備えた栄養教諭の養成を目指し、教職課程と学科での栄養士養成を一体化した教育を展開する。①個別最適な学びと協働的な学びの実践的指導力、②栄養学の専門知識、③給食の調理・管理の知識・技能を身につけるだけでなく、京都が誇る豊かな食文化に触れることで、④人々の生活の質（QOL）を高める「食」のマネジメント力を獲得させる。これらを土台として、「学校給食の管理」および「食に関する指導」を家庭や地域住民その他の関係者との連携の上で実践する資質・能力を身につけさせる。

各学年の到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	入学後の教職課程ダイダンスにおいて教職を目指す意志を確認し、4年間のカリキュラム構成を理解する。教員として必要な資質・能力の根本に関わる日本国憲法や情報リテラシーに関する科目等の内容を着実に修得するとともに、リベラルアーツ科目と学科における初年次教育を通じて、大学における主体的な学びの方法と精神を会得する。
	後期	教職の意義及び教員の役割・職務内容に関する科目を履修し、教職に関する基礎的知識を修得するとともに、教職を目指す意志を確たるものとする。学科の教育においては、栄養学や調理に関する基礎的科目の内容を確実に修得し、栄養教諭としての職務遂行に必要な知識・技能を基礎を身につける。
2年次	前期	教育の理念及び教育に関する歴史及び思想に関する科目や教育課程の意義及び編成の方法に関する科目を柱として、学校現場での実践的指導の土台となる教育学の基礎的知識を修得し、教育に関わる諸問題について経験論だけでなく理論的に思考できるようになる。加えて、1年次に引き続き、学科科目を通じて健康および栄養に関する知識・技能を向上させる。
	後期	教育に関する制度的事項に関する科目や教育の方法及び技術に関する科目を核として、教育学の理論に裏打ちされた食に関する指導力の基礎を確実に習得し、栄養教諭としての自らの将来像をイメージできるようにする。並行して、学科での調理や栄養学、食品学関係の実験・実習の経験を積み、栄養士としての専門性の基礎を身につける。
3年次	前期	前年度までの修得事項を基盤として、教育相談や生徒指導に関する科目を柱として、実践的指導力を向上させる。学科の専門科目も含めて、3年前期までに栄養教諭として最低限必要な知識・技能を一通り修得し、後期から開始される栄養教育実習の事前指導に備える。前期の終了時には教員採用試験まで1年を切っていることを認識し、受験生としての自覚を強く持つ。
	後期	栄養教育実習の事前指導で指導案作成と模擬授業を実践することによって、現場で授業を実施する上で求められる水準の指導力を獲得する。翌年の栄養教育実習と教員採用試験を見据え、教職に就くためにこれからするべきことを自らの中で明確に整理し、それに対する準備を生活の中での最優先事項として位置付ける。栄養士実力認定試験でも高得点を獲得する。
4 年次	前期	栄養教育実習で実際の栄養教諭の職務を身をもって経験し、大学の講義や演習のみでは得られない実践的な体験を積む。研究授業での指導案作成や反省会を通して、一人の教員として直ちに現場に出ても恥ずかしくない水準の指導力を修得する。教員採用試験においては、知識・技能・人物評価のいずれにおいても採用者の求める水準をクリアする。
	後期	栄養教育実習の経験を踏まえ、教職実践演習でICTを使用した模擬授業等に取り組み、翌春から栄養教諭として十分に勤務可能な力量を確たるものとする。卒業研究においては、答えのない課題に対して自分の力で取り組む経験を積み、栄養士としての専門性を強みとしながら生涯に渡って学び続ける教師としての基盤を形成する。

■看護学科における教員養成理念

【養護教諭一種免】

看護学科の教員養成は、本学の教育理念である仏教精神に基づく「おもいやりの心」をもつ高い人間力の育成を背景として、「科学的思考力」を兼ね備えた実践能力をもつ養護教諭を育成することを理念として、「知識・理解」「汎用的能力」「態度・志向性」「統合的な学習経験と創造的思考力」をキーワードに以下の様に教育を行っている。(1)まず、ライフサイクル別の発達特徴・発達課題や健康に影響を与える環境や要因、看護の役割機能などの「知識・理解」の獲得促進を目指している。(2)次に、対象との援助関係を中心とするコミュニケーション能力や、看護実践に必要な情報処理技術・リテラシー、対象の健康上の問題をクリティカルに分析判断する論理的思考力、科学的根拠に基づく看護実践力、チーム医療や地域連携ケアに必要な調整能力等の「汎用的能力」を育成している。（３）また、対象者の尊厳を守り、尊重した態度や、主体的学習者としての「態度・志向性」の醸成を図っている。（４）さらに、国内外の健康課題に関する動向に関心をもち、医療や社会の発展に貢献する専門家としての「統合的な学習経験と創造的思考力」の育成を図ることを目指している。

各学年の到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	学士力のための基礎的能力を養うための基礎ゼミや専門基礎科目の講義・演習を通して、ケアの対象となる人が、その人らしく安全に日常を送るための援助技術の基本を修得し、養護教諭を目指すための学習態度、技術、コミュニケーション力を養う。
	後期	対象が抱える健康課題の理解のための病理・薬学等の専門基礎科目に加えて、様々な背景をもつ人々との人間関係を成立・発展させ、援助を行うための看護コミュニケーションや、日常生活行動に必要な看護技術の学習を進めるとともに、教職を目指すことの意義や、教育学の基礎理念を身に付け、自らのキャリア形成に対するビジョンを確立する。
2年次	前期	看護専門科目では、健康問題を持つ人々への援助を見出すために必要なアセスメントの理論と技術を習得し、対象に必要なケア計画立案・実践・評価の過程を身につける。また、教職に関する科目群の履修を通して、学校制度の変遷や、児童生徒の発達・学習過程の特徴をおさえたうえで、教育相談等の内容と技法を学び、教職に必要な基礎的能力の向上に努める。
	後期	看護専門科目において、小児期から成人期、周産期、高齢期に至るライフステージ別の発達課題を踏まえ、ケア実践に必要な理論・技術を学ぶ。さらに、教職関連科目の講義を通じて、養護教諭の職務および、現代的健康課題を抱える児童生徒への個別・組織的支援の在り方や、特別支援教育について学びを深める。
3年次	前期	看護専門科目の演習において、ライフステージ各期の療養者のケアや継続看護の技術を身につけるとともに、疫学等の受講により、児童生徒の健康増進に必要となる集団の健康を測る評価指標と分析方法について学び、健康危機管理の在り方について学びを深める。
	後期	看護臨床実習において、療養者や潜在的健康課題を持つ個人・集団のライフステージ各期の健康増進・回復支援技術の実践を通して、対象（個人・集団）ニーズの把握・分析・解決のためのケア実践・評価に至るPDCAの過程を学ぶ。
4 年次	前期	教育実習を通して、養護教諭の職務の実際と、児童生徒理解や教育者としての使命・責任感、教育的愛情を学ぶ。また、看護学においては、統合実習において、療養生活と継続看護を支援する保健・医療・福祉との連携を実践する能力を身につける。さらに、卒業論文ゼミに所属し、実習での養護実践体験に基づく問いを研究に昇華し、養護実践に必要なPDCAサイクルを体験する。併せて、教員採用試験を受験することによって、養護教諭としてのキャリア志向性を確立する。
	後期	教職実践演習を履修し、教師に必要な専門性の到達度を自己評価するとともに、教師に向けた自己の確立を目指すことによって、履修者の教員としての資質を保証する。さらに、看護倫理などの科目において、ケア実践に必要な倫理について実習経験を省察し、学びを深める。

４．教員養成に係る組織、教員体制および授業科目

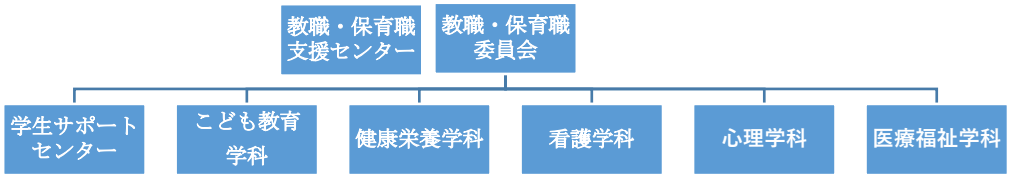
（１）教員養成に係る組織

①教職・保育職委員会

教務部長、教職課程及び保育職課程を有する各学科から選出された委員、教職科目及び保育職科目担当教員から選出された委員、教職保育職支援センター長及び副センター長、学生サポートセンター、教職・保育職支援センターを構成員とする。

教員養成課程についての情報を全学的に共有かつ議論できる組織的な体制を整え、定例会を持っている。また、必要に応じて臨時委員会を設定している。大学外の関係機関との連絡調整は、原則的に所属する「京都地区大学教職課程協議会」や「京都地区私立大学教職課程研究連絡協議会」を通じて組織的に行っている。また、必要に応じて教職保育職支援センター長を通じて行っている。

【委員会の組織図】



②教職・保育職支援センター

教育実習等各種実習に関わる事務手続き、教員免許状取得に関わる各種ガイダンス、対策講座、公開模擬試験などの実施を行うと同時に、適宜教免・保育士資格取得に関する相談を受け付けるなど、教職・保育職を目指す学生に個別に対応するための窓口である。教職・保育職支援センターの構成員は4名おり、教育現場において求められる教員・保育士としての知識や技能を踏まえた上で、教職・保育職を目指す学生の指導にあたっている。特に、こども教育学科・健康栄養学科・看護学科・心理学科・医療福祉学科や学生サポートセンターと教職保育職支援センターとがより連携を強めながら、採用試験の受験対策に特化したさまざまな指導や支援を行う体制で臨んでいく。

（２）各学科の教員数

※（　）内は教職課程科目担当者数<教職・教科とも>

	教授	准教授	講師	助教
健康栄養学科	7（4）	6（2）	3（3）	―
看護学科	9（6）	6（3）	6（4）	7（2）
こども教育学科	8（8）	6（5）	4（4）	―
その他	(1)	(1)		

（３）教員体制及び授業科目（授業の内容・方法、授業計画はシラバス検索で参照）

①栄養教諭一種・二種免許

科　　目	授業科目	専任･兼担教員 （空白は非常勤）
教育の基礎的理解に関する科目	教育原理	西川　潤
	教職論	西川　潤、河嶋　伸久
	教育行政学	西川　潤
	教育心理学	徳田　仁子
	特別支援教育	高井　小織
	教育課程論	全　京和
道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談に関する科目	道徳教育の理論と指導法	西川　潤
	特別活動及び総合的な学習の時間	西川　潤、谷本　寛文
	教育方法論（ICT活用を含む）	全　京和
	生徒指導及び進路指導論	伊藤　美加
	教育相談	徳田　仁子
教育実習	事前・事後指導a	西川　潤、桑島　千栄、 齋藤　陽子、巽　美奈子
	栄養教育実習	西川　潤、齋藤　陽子、 巽　美奈子
教職実践演習	教職実践演習（栄養教諭）	西川　潤、巽　美奈子

②中学校・高等学校教諭一種免許状「保健・体育」

科　　目	授業科目	専任･兼担教員 （空白は非常勤）
教育の基礎的理解に関する科目	教育原理	西川　潤
	教職論	西川　潤、河嶋　伸久
	教育行政学	西川　潤
	教育心理学	徳田　仁子
	特別支援教育	高井　小織
	教育課程論	全　京和
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目	道徳教育の理論と指導法	西川　潤
	特別活動及び総合的な学習の時間	西川　潤、谷本　寛文
	教育方法論（ICT活用を含む）	全　京和
	生徒指導及び進路指導論	伊藤　美加
	教育相談	徳田　仁子
教育実践に関する科目	事前・事後指導b	船越　達也、西川　潤、
教育実践に関する科目	教育実習（中・高）Ⅰ	船越　達也、西川　潤、 小森　康加
	教育実習（中・高）Ⅱ	船越　達也、西川　潤、 小森　康加
	教職実践演習（中・高）	西川　潤、小森　康加

③養護教諭一種免許

科　　目	授業科目	専任･兼担教員 （空白は非常勤）
教育の基礎的理解に関する科目	教育原理	西川　潤
	教職論	西川　潤、河嶋　伸久
	教育行政学	西川　潤
	教育心理学	徳田　仁子
	特別支援教育	高井　小織
	教育課程論	全　京和
道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談に関する科目	道徳教育の理論と指導法	西川　潤
	特別活動及び総合的な学習の時間	西川　潤、谷本　寛文
	教育方法論（ＩCT活用を含む）	全　京和
	生徒指導及び進路指導論	伊藤　美加
	教育相談	徳田　仁子
教育実践に関する科目	事前・事後指導	
	養護実習	、諏澤　ひろえ
	養護実践演習（養護教諭）	西川　潤、谷本　寛文、 諏澤　ひろえ、

④幼稚園教諭一種免許

科　　目	授業科目	専任･兼担教員 （空白は非常勤）
教育の基礎的理解に関する科目	教育原理	全　京和
	教職論	西川　潤
	保育者論	柳生　和代
	教育の制度・運営	河野　和清
	保育の心理学	伊藤　美加
	教育心理学	伊藤　美加
	障害児保育・特別支援教育	和田　幸子
	保育の計画と評価	柳生　和代
	教育課程論（初等）	全　京和
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目	保育方法論	和田　幸子
	教育方法論（初等）（ＩCT活用を含む）	全　京和
	子どもの理解と援助	山﨑　玲奈
	子ども家庭支援の心理学	山﨑　玲奈
	教育相談（初等）	山﨑　玲奈
教育実践に関する科目	教育実習事前・事後指導（幼稚園）	智原　江美、柳生　和代
	幼稚園教育実習	智原　江美、谷本　寛文、伊藤　美加、内田　和寿、河原　聡子、下口　美帆、田中　慈子、田緑　眞弓、松本　しのぶ、和田　幸子、山﨑　玲奈、全　京和、Z.ストリックランド、小野寺　かれん、柳生　和代
	教職・保育実践演習	谷本　寛文、和田　幸子、 下口　美帆

⑤小学校教諭1種免許

科　　目	授業科目	専任教員 （空白は非常勤）
教育の基礎的理解に関する科目	教育原理	全　京和
	教職論	西川　潤
	教育の制度・運営	河野　和清
	教育心理学	伊藤　美加
	特別支援教育	高井　小織
	教育課程論（初等）	全　京和
道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談に関する科目	道徳教育の理論と指導法（初等）	全　京和
	総合的な学習の時間の指導法	谷本　寛文
	特別活動指導論（初等）	全　京和
	教育方法論（初等）（ICT活用を含む）	全　京和
	生徒指導論（初等）	伊藤　美加
	教育相談（初等）	山﨑　玲奈
教育実践に関する科目	教育実習事前・事後指導（小学校）	谷本　寛文、河原　聡子、 小野寺　かれん
	小学校教育実習Ⅰ	谷本　寛文、智原　江美、伊藤　美加、内田　和寿、河原　聡子、下口　美帆、田中　慈子、田緑　眞弓、松本　しのぶ、和田　幸子、山﨑　玲奈、全　京和、Z.ストリックランド、小野寺　かれん、柳生　和代
	小学校教育実習Ⅱ	谷本　寛文、智原　江美、伊藤　美加、内田　和寿、河原　聡子、下口　美帆、田中　慈子、田緑　眞弓、松本　しのぶ、和田　幸子、山﨑　玲奈、全　京和、Z.ストリックランド、小野寺　かれん、柳生　和代
	教職・保育実践演習	谷本　寛文、和田　幸子、 下口　美帆

５．卒業者の教員免許状の取得状況及び教員への就職状況

	2016年度 卒　業	2017年度 卒　業	2018年度 卒　業	2019年度 卒　業	2020年度 卒　業	2021年度 卒　業	2022年度 卒　業
免許状取得者数	27名	14名	84名	92名	108名	91名	87名
教員就職者数 （幼稚園教諭除く）	4名	3名	15名	15名	17名	17名	15名

６．教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組に関すること

（１）エンロールメント・マネジメント（EM）による教育充実策

本学は、学士課程の質保証の流れの中で「学生の主体的な学び」の実現へ向けたFDとして、教育課程の体系化と組織的教育を柱にカリキュラム改革、授業内容・方法の改善、教員の授業実施能力の向上などに取り組んできた。これを本学では、全学的な学生総合支援策「エンロールメント・マネジメント（EM）」の中に「教育充実策」として位置づけている。教員を目指す学生に対し、履修の仕方、実習の事前・事後指導や教員免許状の申請手続き方法、教員採用試験対策などについて、専門教員が丁寧に指導するとともに、さまざまな疑問や悩みにも個別に対応している。また、併設の小学校、中学校、高等学校での授業参観を行い、模擬授業なども実施して、実習本番に向けて万全の態勢で臨めるようサポートしている。また、教育委員会を窓口にした学生ボランティア活動、学校が直接募集する学生ボランティア活動、併設校である光華幼稚園・光華小学校・京都光華中学校・高等学校における学生ボランティアへの参加を通して、学生が主体的にボランティアとして教育現場での体験が容易に得られるように、併設校の受入体制や時間割を工夫するなどの環境整備を図っている。

（２）AP採択による「学習・学修マネジメント力」を向上させる学修支援体制の構築

平成26年度、本学は文部科学省の大学教育再生加速プログラム（AP:大学教育改革を更に推進する先進的な取組み）として採択された。これは、知識やスキルの修得に向けて主体的に行動ができる女性を育成するため「アクティブ・ラーニング（AL）」を推進し、「学習・学修マネジメント力」を向上させる学修支援体制を全学的に展開していく取り組みである。

（３）自主学習の促進

学生は、講義や演習・実習科目を通じて教員の指導を受けるとともに、自らの疑問や課題に自主的に取り組むことが重要である。後者への真摯な努力の中で、前者に対するより深い興味と理解が開けてくる。本学では、学生の個人ないしグループでの自主的な学習を奨励しサポートするために、全学部・学科の学生が利用可能な学習ステーションおよび学科ごとに設置するコモンズを平成26年4月より新設し、学生の利用に供している。学生のグループ学習や学習のための作業の空間にするため、アドバイザーとなる教職員や経験が豊富な先輩学生（ピアサポーター）が常駐し、学生の相談に乗る。さらに、平成29年度より「教職・保育職支援センター」を立ち上げ、学生をきめ細かく指導・支援できる環境も整えることとしている。